

■ 研究論稿

死のイメージとその関連要因についての因子分析

——看護学生を対象とした質問紙調査による研究——

菊地 登喜子 小代 聖香 近沢 範子

高木 廣文 柳井 晴夫 西尾 鏡子





死のイメージとその関連要因に ついで因子分析

——看護学生を対象とした質問紙調査による研究——

菊地 登喜子* 小代 聖香** 近沢 範子***

高木 廣文**** 柳井 晴夫**** 西尾 鏡子****

〔著者抄録〕看護基礎教育におけるタナトロジーの教授に供するため看護大学の学生 214 名の死のイメージおよび死に遭遇した経験等について質問紙調査を行った。因子分析により潜在する因子を探索し、それらの因子の解釈を試みた。さらに学年、宗教、母親の職業などの特性別に因子得点を比較した。死への肯定的イメージ、平静等を象徴する色、死に直面した場合の態度の安

定傾向、終末期ケアへの関心が第 5 因子と関係し、神経質・情緒不安定な性格、死への否定的イメージおよび態度の不安定傾向が第 7 因子と関係していた。宗教を有する学生は靈魂の不滅、神の存在を肯定する因子、積極性、外向性、自己肯定の因子、死と終末期ケアへの関心、援助意志を示す因子で得点が有意に高かった。この結果、宗教は援助への望ましい要因であると示唆された。

はじめに

疾病構造や生活様式の変化に伴い、近年、終末期を病棟で迎える患者が増加している。そのため、看護学生は病棟での臨床実習において終末期の患者ケアや死に出会う機会が多くなってきた。

これまで、看護学生の死に対する認識についての調査¹⁾や、死および瀕死の患者に対する看護学生の態度に関する調査²⁾³⁾⁴⁾などの研究がいくつか行われている。しかし死のイメージに関する報告はない。

「イメージ」とは、「観念または、包括的な事物や事象や思想などに対して、人が抱く印象、態度、好み、および評価」であり⁵⁾、「記憶の目的に従って体系的に結合し、この情報体系の機能の発現が行為を形成するという心理的構成概念」であると定義されている⁶⁾。すなわち、「イメージ」とは、何らかの意味で個人の内面を反映し、さらに個人の行動にも反映するものである。このことから、死のイメージおよびそれに関連する要因を検討することにより、看護学生が終末期の患者や患者の死に遭遇した場合に示す様々な反応を予測するうえで、有用な知見が得られるものと考えられる。そこで、われわれは「死のイメージ」についての調査を行うことにした。調査結果の分析には、近年、心理学・医学の分野において広く使われている多変量解析の一手法である因子分析

を用い、死のイメージおよびそれに関する共通因子の抽出、さらにそれらの因子と学年別、宗教の有無、母親の職業などとの関連について分析することを試みたので報告する。

I 調査票の作成

調査のための質問紙(別表①②)は以下のように設定した。すなわち、「死のイメージ」については「オスグットの意味論とSD法」を参考に20語の形容語対を選び出し、質問項目とした⁷⁾。また、「死のイメージ」に関連して「死の色のイメージを知るために15の色を選定した。これは、色の象徴する意味と死のイメージの関連づけを検討するためである。さらに質問項目として「性格」「死に対する態度」「死に遭遇した経験」「宗教の有無」などの関連項目を加え、全75項目よりなる質問紙を作成した。なお各項目に対する回答方法は、各項目についてあらかじめ設定した3通りの選択肢から1つだけ選ぶこととした。

II 調査対象と調査時期

1. 調査対象

* 日本看護協会看護研修学校・教員 ** 聖路加国際病院・看護婦 *** 芸西病院・看護婦 **** 聖路加看護大学・教授 ***** 大学入試センター・教授 森*** 長谷川病院・看護婦

別表① 質問紙用紙

I. ()の中に適切な数字を記入し、()のないものは該当するものを○で囲んで下さい。

- ① 学年 () 年, 年齢 () 歳, 出身県 ()
② 父親の職業 (なるべく詳しく)()
母親の職業 ()

③ 家族の人数 () 人, 家族構成 (父, 母, 兄, 姉, 弟, 妹, 祖父, 祖母)(自分も含めて)

④ あなたの現在の住居 (下宿, アパートまたはマンション, 自宅)

⑤ あなたの趣味 ()

⑥ 信仰している宗教 (有・無)

1	2
3	4

5	6
---	---

7
8
9

10	11
12	13
14	15

II. 次にいくつかの質問があります。あなたにあてはまるもの()の中に○を記入して下さい。できるだけ“はい”か“いいえ”に○を記入し、どうしても答えられない場合のみ“どちらでもない”に○を記入してください。

- 1) 他人の苦しみがよくわかる……はい() どちらでもない() いいえ()
2) 感受性は豊かだ……はい() どちらでもない() いいえ()
3) 何事にも積極的な方である……はい() どちらでもない() いいえ()
4) いつも気分は安定している……はい() どちらでもない() いいえ()
5) 人のためにつくすのが好きである……はい() どちらでもない() いいえ()
6) 私には人生の目標がある……はい() どちらでもない() いいえ()
7) 将来のことはわからないから現在を楽しく生きられればよい……はい() どちらでもない() いいえ()
8) 几帳面な方だ……はい() どちらでもない() いいえ()
9) 過去の失敗をよくよく考える……はい() どちらでもない() いいえ()
10) まわりの人がいなくなるとホッとすると……はい() どちらでもない() いいえ()
11) 感情が高ぶりやすい……はい() どちらでもない() いいえ()
12) ささいなことが気になってしかたない……はい() どちらでもない() いいえ()
13) 気が変わりやすい……はい() どちらでもない() いいえ()
14) 他人の思わくが気になる……はい() どちらでもない() いいえ()
15) 人一倍負けずきらいだ……はい() どちらでもない() いいえ()
16) 世話役をやらされることが多い……はい() どちらでもない() いいえ()
17) ねばり強い方だ……はい() どちらでもない() いいえ()

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----

- 18) はずかしがりやである……はい() どちらでもない() いいえ()
19) 毎日の生活が楽しくてしかたない……はい() どちらでもない() いいえ()
20) マイベースな方である……はい() どちらでもない() いいえ()

18
19
20

III. “死”についてのあなたのイメージに近い方に○をつけて下さい。

- 1) 美しい () どちらでもない () 醒 ()
2) 開放的 () どちらでもない () 閉鎖的 ()
3) 激しい () どちらでもない () 穏やか ()
4) 冷たい () どちらでもない () 暖かい ()
5) 固い () どちらでもない () やわらかい ()
6) 複雑な () どちらでもない () 単純な ()
7) 男性的な () どちらでもない () 女性的な ()
8) 張りつめた () どちらでもない () ゆったりした ()
9) 不安定な () どちらでもない () 安定した ()
10) 俗っぽい () どちらでもない () 高尚な ()
11) 好き () どちらでもない () きらい ()
12) 静かな () どちらでもない () 動かな ()

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----

別添②

13) 親しみやすい	どちらでもない	親しみにくい	13
14) 怖い	どちらでもない	怖くない	14
15) 苦痛な	どちらでもない	安楽な	15
16) 自然な	どちらでもない	不自然な	16
17) よい	どちらでもない	わるい	17
18) 連続的な	どちらでもない	断絶的な	18
19) 甘い	どちらでもない	からい	19
20) 速い	どちらでもない	遅い	20

IV. 次の項目について、あてはまるものの()の中に○を記入して下さい。

1) 神は存在すると思う	はい()	どちらでもない()	いいえ()
2) すべてのものには靈魂が宿ると思う	はい()	どちらでもない()	いいえ()
3) 死後の世界があると思う	はい()	どちらでもない()	いいえ()
4) 死について友人とよく語りあう	はい()	どちらでもない()	いいえ()
5) 死についてはなるべく話題にしたくない	はい()	どちらでもない()	いいえ()
6) 終末期の患者の看護をしたいた	はい()	どちらでもない()	いいえ()
7) ホスピス医療に携ってみたい	はい()	どちらでもない()	いいえ()
8) 自分の死が予測される場合、知らせてほしい	はい()	どちらでもない()	いいえ()
9) 私は死を覚悟できる	はい()	どちらでもない()	いいえ()
10) 死がどんな感じのものか知りたい	はい()	どちらでもない()	いいえ()
11) 人が目の前で死んでいってもあまり不安には感じないだろう	はい()	どちらでもない()	いいえ()

12) 死の不安を訴える患者のそばにはとどまらない	はい()	どちらでもない()	いいえ()
13) 死にゆく人への援助は自分にとって意味があると思う	はい()	どちらでもない()	いいえ()
14) 親しい人が死んだら、私は容易には立ち直れないと思う	はい()	どちらでもない()	いいえ()
15) 死が免れない時には苦しみには意味がない	はい()	どちらでもない()	いいえ()
16) 自分の死を考えると心が乱れる	はい()	どちらでもない()	いいえ()
17) 死にゆく人の世話・看護をしたことがある	はい()	いいえ()	
18) ベットの死を経験したことがある	はい()	いいえ()	
19) 重い病気をしたことがある	はい()	いいえ()	
20) 家族、親しい人、友人の死の経験がある	はい()	いいえ()	

V. 次にあげる色が死のイメージにあてはまると思いますか。

1) 透明	はい()	どちらでもない()	いいえ()
2) 赤	はい()	どちらでもない()	いいえ()
3) 水色	はい()	どちらでもない()	いいえ()
4) 銀	はい()	どちらでもない()	いいえ()
5) 青	はい()	どちらでもない()	いいえ()
6) 灰色	はい()	どちらでもない()	いいえ()
7) 緑	はい()	どちらでもない()	いいえ()
8) 肌色	はい()	どちらでもない()	いいえ()
9) 白	はい()	どちらでもない()	いいえ()
10) 黄	はい()	どちらでもない()	いいえ()
11) 茶色	はい()	どちらでもない()	いいえ()
12) 桃色	はい()	どちらでもない()	いいえ()
13) 紫	はい()	どちらでもない()	いいえ()
14) 金	はい()	どちらでもない()	いいえ()
15) 黒	はい()	どちらでもない()	いいえ()

S看護大学1年生、2年生、3年生（編入生2名含む）、4年生（編入生5名含む）の合計214名で、全学生の94%に相当する（表1）。

2. 調査時期

調査は1984年6月に実施し、調査票の回収率は100%であった。

Ⅲ 分析方法

自己の性格に関する項目、死に対する形容詞によるイメージ、死に対する態度、死に遭遇した経験、死に対する色のイメージの項目について、それぞれ単純集計を行った。次に、1)死のイメージ、2)死の色のイメージ、および3)全項目をまとめた場合の3通りについて、それぞれバリマックス法による因子分析を行った。全項目の因子分析の結果得られた各因子の因子得点について学年別の差を検討するために一元配置分散分析を行った。同様に母親の職業が看護婦であるか否か（表2）、宗教の有無（表3）による因子得点の母平均値の差についても検定を行った。また、2群間の比較の場合、等分散が仮定されない場合には、ウェルチ（Welch）の検定を行った⁹⁾。なお、実際の計算は東京大学大型計算機センターのHITAC M280H/200Hを用い、主な計算はSPSS¹⁰⁾を利用した。

Ⅳ 結果

1. 単純集計

表4に、自己の性格に関する項目のうち、「はい」と回答した割合が高率であった上位6項目を示した。それらは「マイペースなほうである」「人生の目標がある」「感受性は豊かに」「他人の思惑が気になる」「恥ずかしがりやである」「人のために尽くすのが好きである」であった。

表5に示したように、死のイメージについて高率な回答を得た形容詞は、「静的な」「自然な」「冷たい」「穏やかな」「親しみにくい」「怖い」などであった。

表6に、死に対する態度について「はい」と答えた割合が高率であった項目を示した。それらは、「死にゆく人への援助は自分にとって意味があると思う」「自分の死が予測される場合知らせしてほしい」「人が目の前で死んでいくのは不安である」「死について話題にしたい（否定的）」などであった。

死に遭遇した経験について「はい」と答えた割合が高

表1 学年別対象者数

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	計
人数 (%)	49(23)	52(24)	53(25)	60(28)	214(100)

表2 母親が看護婦である学生の割合

	母親が看護婦	看護婦でない	不明	計
人数(%)	36 (17)	173(81)	5 (2)	214(100)

表3 宗教の有無

	有	無	計
人数 (%)	38(18)	176(82)	214(100)

表4 パーソナリティの自己分析について「はい」の高率な項目

項 目	人 数	(%)
マイペースな方である	154	(75%)
私には人生の目標がある	148	(69%)
感受性は豊かだ	147	(69%)
他人の思惑が気になる	136	(64%)
恥かしがりやである	130	(61%)
人のために尽くすのが好きである	124	(58%)

表5 死のイメージについて「はい」の高率な項目

項 目	人数 (%)
静的な	184(86%)
自然な	181(85%)
穏やかな	144(67%)
冷たい	144(67%)
親しみにくい	138(64%)
怖い	134(63%)

表6 死に対する態度について、「はい」の高率な項目

項 目	人数 (%)
死にゆく人への援助は自分にとって意味がある	193(90%)
自分の死が予測される場合知らせしてほしい	173(81%)
人が目の前で死んでゆくのは不安である	156(73%)
死について話題にしたい(-)	136(64%)
親しい人が死んだら容易に立ち直れないと思う	129(60%)
死がどんな感じのものか知りたい	126(59%)

※ (-)は否定的に答えたもの

表7 死に遭遇した経験について、「はい」の高率な項目

項 目	人数 (%)
重い病気をしたことはない	206(94%)
家族、親しい人、友人の死の経験がある	156(73%)
死にゆく人の世話や看護をしたことがない	109(51%)

率な項目を表7に示した。その中で「家族、親しい人、友人の死の経験がある」が73%、「死にゆく人の世話、看護をしたことがない」は51%であった。

死の色のイメージで「あてはまると思う」に高率であ

表8 死の色のイメージで、「あてはまる」あるいは「あてはまらない」と思うもので高率な項目

死の色のイメージ	項目	人数 (%)
あてはまると思う	白	173(81%)
	透明	160(75%)
	灰色	122(57%)
	黒	121(57%)
あてはまらないと思う	黄色	185(86%)
	緑	174(81%)
	桃色	166(78%)
	茶色	159(74%)
	赤	158(74%)

ったものは「白」「透明」「灰色」「黒」などであり、「あてはまらないと思う」に高率であったものは、「黄色」「緑」「桃色」「茶色」「赤」などであった(表8)。

2. 因子分析

バリマックス法による因子分析の結果のうち、「死のイメージ」について5因子(図1-a~e)、「死の色のイメージ」について4因子(図2-a~d)、全項目については10因子をそれぞれ示した(表9)。なお、表9と図1では「死のイメージ」「死の色のイメージ」および全項目をまとめた場合の各因子について、因子負荷量の大きい項目ごとに並べかえて示した。また各因子は、寄与率の高さの順ではなく3通りの因子分析の結果が符合するようにその順序を一部並べかえた。

1) 死のイメージ

第1因子は、「好き」「親しみやすい」「怖くない」など死に対して良い、暖かいイメージを示す項目で因子負荷量が高く、次いで「安楽な」「開放的な」といった肯定的なイメージの項目、他に因子負荷量はあまり高くないが「良い」「男性的な」「甘い」などの項目が関係していた(図1-a)。

第2因子は、「美しい」「良い」「連続的な」「自然な」「高尚な」「女性的な」「安定した」といった主として肯定的で平穏なイメージを表わす項目で因子負荷量が高かった(図1-b)。

第3因子は、「固い」「冷たい」「辛い」といったいやな、死体を思わせるようなイメージの項目で負荷量が高く、また「男性的な」「張りつめた」など緊張を示す項目も含まれていた(図1-c)。

第4因子は、負荷量の高い順に「激しい」「動的な」「不安定な」「不自然な」「張りつめた」といったいずれも衝撃的なイメージを表わす5つの項目が関係していた(図1-d)。

第5因子は、「複雑な」「張りつめた」「高尚な」「不安定な」という避けたいような、近寄りがたいイメ

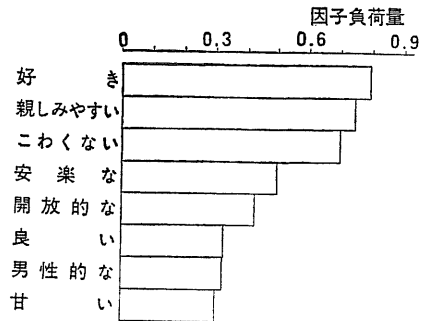


図1-a 死のイメージについて、第1因子における因子負荷量0.30以上の項目(寄与率13.4%)

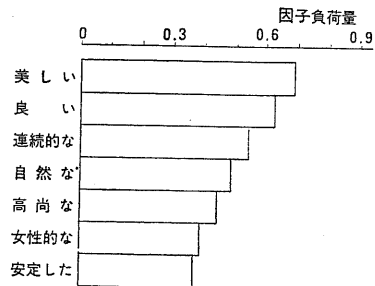


図1-b 死のイメージについて、第2因子における因子負荷量0.30以上の項目(寄与率10.7%)

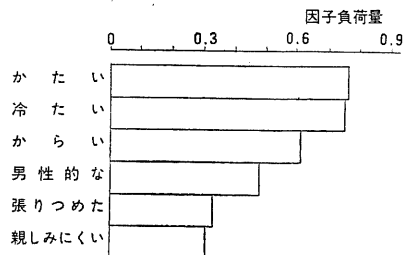


図1-c 死のイメージについて、第3因子における因子負荷量0.30以上の項目(寄与率11.3%)

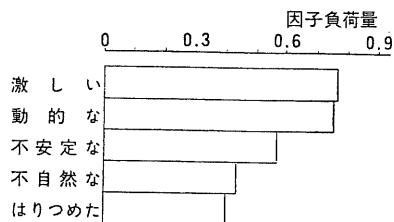


図1-d 死のイメージについて、第4因子における因子負荷量0.30以上の項目(寄与率10.7%)

ージの項目の負荷量が高かった。

2) 死の色のイメージ

第1因子は、「黒」「灰色」「赤」「紫」「茶色」など暗い、強烈な、重厚なイメージを示す項目で負荷量が

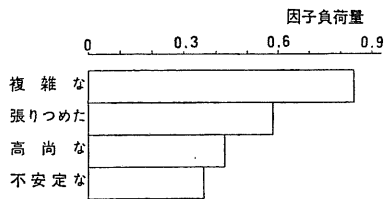


図1-e 死のイメージについて、第5因子における因子負荷量0.30以上の項目（寄与率7.4%）

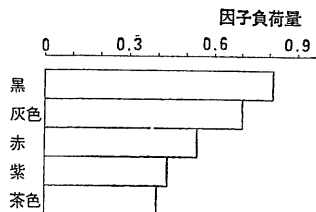


図2-a 死の色のイメージについて、第1因子における因子負荷量0.30以上の項目（寄与率14.0%）

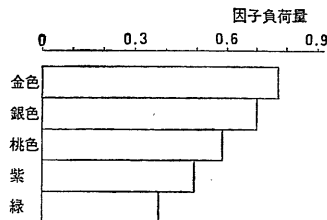


図2-b 死の色のイメージについて、第2因子における因子負荷量0.30以上の項目（寄与率13.6%）

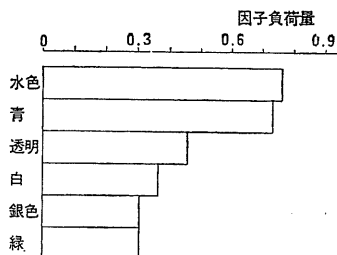


図2-c 死の色のイメージについて、第3因子における因子負荷量0.30以上の項目（寄与率11.7%）

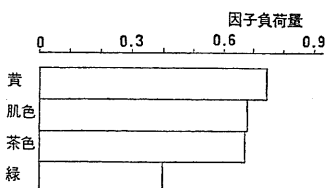


図2-d 死の色のイメージについて、第4因子における因子負荷量0.30以上の項目（寄与率12.2%）

高い（図2-a）。

第2因子は、「金」「銀」「桃色」「紫」「緑」といったきらびやかな葬儀を思わせるようなイメージを示す項目で負荷量が高かった（図2-b）。

第3因子は、「水色」「青」「透明」「白」「銀」「緑」などの項目で負荷量が高かった（図2-c）。

第4因子は、「黄色」「肌色」「茶色」といった主として暖かいイメージを示す項目で負荷量が高く、「緑」も関係していた（図2-d）。

3) 全項目をまとめた場合の因子分析

第1因子は、「柔かい」「暖かい」「甘い」という感覚的に快いイメージ、「好き」「親しみやすい」「良い」「開放的な」「安楽な」といった主として死に対する肯定的なイメージを示す項目の負荷量が高かった。色では、「桃色」「緑」で負荷量が高く、「黒」や「灰色」では負に負荷量が高かった。援助意志・態度については、「人の死に直面してもあまり不安には感じないだろう」という安定した態度傾向を示す項目、「死についてよく語り合う」という項目の負荷量も比較的高かった。

第2因子は、「金」「銀」「紫」というきらびやかで荘重な葬儀を思わせるような色での負荷量が高かった。また因子負荷量は大きくないが、死は「美しい」「暖かい」という肯定的な項目での負荷量も高かった。

第3因子は、「黄色」「茶色」「肌色」という暖かい色、および「俗っぽい」などの死に対する身近なイメージを示す項目、次いで人の死の場面に立ち合った際にとる安定した態度傾向の項目でそれぞれ負荷量が高かった。

第4因子は、「水色」「青」などの項目の負荷量が高かった。また因子負荷量は大きくないが、「恥ずかしがりやでない」などの外向性に関する項目、および死に対する安楽なイメージに関する項目も関係していた。

第5因子は、終末期患者の援助に対する高い関心と積極的態度を示す項目で負荷量が高かった。また「人に尽くすのが好き」といった世話好きな性格を示す項目、および死に対する「好き」「美しい」などの肯定的イメージを示す項目もやや関係があった。

第6因子は、「激しい」「動的な」「不安定な」など死に対する緊張的、衝撃的なイメージを示す項目の負荷量が高かった。また、因子負荷量は大きくないが「死について話題にする」という項目は、正の関係があり、「親しい人が死んだら容易に立ち直れないだろう」という不安定になる態度傾向とは負の関係がある。

第7因子は、「ささいなことが気になってしかたがない」など神経質な性格に関する項目、情緒の不安定さを示す項目の負荷量が高かった。また親しい人を亡くした場合の不安定な態度傾向を示す項目、および死に対する不安定なイメージに関する項目で弱い負荷が認められた。

表9 因子分析(バリマックス法)による全項目の因子負荷量

項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	第5因子	第6因子	第7因子	第8因子	第9因子	第10因子
柔らかい	0.701	0.063	-0.010	-0.010	0.078	0.018	0.186	-0.013	-0.051	-0.044
好き	0.694	-0.014	-0.010	0.047	0.180	-0.053	0.085	-0.091	0.012	0.003
暖かい	0.689	0.229	-0.063	-0.157	0.013	0.041	0.099	0.000	0.013	0.009
親しみやすい	0.686	0.031	0.160	0.034	-0.003	-0.046	0.074	0.061	0.023	-0.020
甘い	0.675	-0.050	0.013	0.001	-0.029	-0.032	-0.047	0.031	-0.105	0.045
解放的な	0.504	0.063	-0.190	-0.031	0.139	-0.122	-0.060	0.048	0.030	0.064
怖い	0.504	0.187	-0.023	-0.026	-0.122	0.049	0.109	-0.001	-0.083	0.124
安楽な	0.484	-0.007	-0.001	0.224	0.091	-0.115	-0.211	0.080	0.118	0.035
良い	0.419	0.088	-0.188	-0.067	0.316	-0.111	-0.079	0.016	0.153	0.083
連続的な	0.339	-0.018	-0.056	-0.022	0.191	0.017	0.059	0.036	0.259	0.100
金	0.046	0.726	0.035	0.026	-0.014	0.160	-0.073	0.162	0.050	-0.056
銀	0.129	0.668	0.019	0.241	0.060	-0.068	-0.043	-0.020	-0.067	-0.021
紫	-0.052	0.618	0.203	0.144	-0.017	-0.116	0.032	-0.030	0.023	0.200
黒	-0.407	0.386	-0.004	-0.005	-0.003	-0.053	0.170	-0.086	0.041	0.139
桃色	0.464	0.384	0.127	0.098	0.080	-0.005	0.002	0.050	-0.022	0.034
灰色	-0.375	0.373	0.125	0.039	0.102	0.065	0.054	-0.186	0.011	-0.021
黄色	0.113	0.131	0.676	0.086	-0.070	-0.061	0.018	0.089	0.166	-0.035
茶色	0.188	0.249	0.675	-0.091	0.114	-0.061	-0.036	0.094	0.104	0.106
俗っぽい	0.093	0.069	0.605	0.001	-0.156	0.229	0.095	-0.099	-0.094	0.005
肌色	0.025	0.038	0.498	0.141	-0.034	-0.048	0.100	0.109	0.114	0.283
死を見て不安でない	0.405	-0.028	0.278	-0.029	0.000	-0.090	-0.177	-0.015	-0.079	-0.137
赤	-0.092	0.000	0.206	-0.061	0.088	0.071	-0.030	0.045	0.033	-0.108
水色	0.117	0.198	0.022	0.699	0.070	-0.196	0.106	0.076	-0.022	-0.099
青	-0.139	0.183	0.012	0.692	0.036	-0.055	-0.036	0.009	0.017	-0.020
緑	0.314	0.355	0.225	0.352	0.025	0.004	0.072	0.039	-0.057	0.035
白	-0.085	0.254	-0.015	0.329	0.171	0.017	0.123	0.096	0.058	0.097
人がいなくなるとホッとする	0.021	0.057	-0.071	-0.222	-0.120	0.038	0.149	-0.137	0.126	0.056
ホスピス医療に携わりたい	0.124	0.004	-0.014	0.088	0.859	-0.067	-0.036	0.059	0.025	0.046
終末期の看護をしたい	0.100	0.043	-0.033	0.034	0.848	-0.010	-0.008	0.015	0.023	-0.027
死について話題にしたい	-0.205	-0.047	-0.073	0.180	-0.390	-0.061	0.008	-0.255	0.169	0.014
死がどんなものか知りたい	0.114	0.123	0.043	0.062	0.336	0.181	-0.143	-0.084	-0.109	0.023
死ぬ人への援助は意味がある	-0.136	-0.135	0.060	0.073	0.315	-0.054	-0.067	-0.158	0.089	0.104
美しい	0.278	0.276	-0.116	0.101	0.295	-0.081	-0.052	0.092	0.219	0.096
激しい	-0.100	0.062	0.008	-0.054	0.033	0.763	0.033	-0.062	0.115	0.012
動的な	0.012	0.008	-0.023	-0.122	0.011	0.742	0.118	0.068	0.086	0.001
不安定な	-0.121	-0.183	0.078	-0.039	-0.108	0.484	0.235	-0.109	0.031	0.043
張りつめた	0.240	-0.169	-0.081	0.081	-0.148	0.357	0.011	0.053	0.100	0.010
自然な	-0.034	-0.019	-0.081	0.123	0.221	-0.327	-0.035	0.127	0.086	0.042
ささいなことか気になる	0.096	-0.006	0.053	0.149	-0.010	0.091	0.815	-0.010	0.096	0.014
過去の失敗について考える	0.058	-0.014	-0.002	0.000	0.044	0.082	0.778	-0.114	0.185	0.021
気分安定	0.003	0.075	-0.039	0.114	0.056	0.014	0.627	0.034	0.251	0.055
感情が高ぶる	-0.032	0.052	0.058	-0.154	-0.097	0.019	0.619	0.168	-0.160	0.029
他人の思惑が気になる	0.041	0.024	-0.093	0.158	-0.080	0.160	0.520	-0.220	0.045	0.052
親しい人の死に立ちなおれぬ	-0.224	-0.154	-0.101	0.005	-0.007	-0.212	0.287	0.091	0.059	0.064
気が変わりやすい	0.036	-0.037	-0.040	-0.062	-0.119	0.074	0.284	-0.018	-0.158	0.051
粘り強い	0.080	0.010	0.041	-0.042	-0.047	-0.074	0.229	0.194	0.149	-0.037
何事にも積極的	-0.097	0.130	0.068	0.018	0.034	0.064	-0.096	0.693	0.001	-0.125
感受性は豊かな	0.073	-0.009	-0.012	0.060	0.081	-0.108	-0.083	0.607	0.366	0.019
はずかしがりや	-0.055	0.039	-0.076	-0.257	-0.108	0.036	0.001	-0.549	0.308	-0.051
世話をやられる	0.081	-0.032	0.119	-0.078	0.211	-0.042	0.051	0.538	0.121	0.058
毎日の生活が楽しい	0.020	0.113	-0.037	-0.002	0.008	0.027	-0.337	0.423	0.231	0.168
死に関して友人と語る	0.307	0.043	-0.073	0.023	0.068	0.267	0.156	0.398	-0.070	0.169
几帳面だ	-0.073	-0.018	0.190	-0.041	-0.025	0.049	0.068	-0.025	0.611	-0.002
他人の苦しみがわかる	0.134	-0.030	-0.042	-0.047	0.077	-0.197	0.107	0.270	0.589	0.003
人に尽すのが好き	0.006	0.033	0.024	0.227	0.361	0.173	-0.084	0.075	0.453	0.043
人生の目標がある	-0.111	0.102	0.203	0.096	0.074	0.007	-0.152	0.312	0.411	0.060
死を覚悟できる	0.294	-0.164	-0.068	0.116	0.111	-0.020	0.029	-0.037	0.205	0.063
死後の世界がある	0.036	-0.041	0.069	0.055	0.022	-0.043	0.090	0.072	0.110	0.754
すべてに靈魂が宿る	0.008	0.117	0.038	-0.070	0.001	0.079	-0.045	-0.099	0.103	0.752
神は存在する	0.040	0.045	0.006	-0.102	0.053	-0.055	-0.010	0.071	0.017	0.647
現在を楽しく生きればよい	0.003	0.041	-0.005	-0.163	0.074	-0.106	0.039	-0.009	0.120	-0.032
負けず嫌いだ	0.091	-0.068	0.030	0.049	0.066	-0.014	0.113	0.159	0.061	-0.058
マイペースなほうだ	0.017	0.054	-0.068	0.007	0.087	-0.072	-0.253	0.126	-0.029	0.007
複雑な	-0.038	0.003	-0.112	0.045	0.006	0.057	-0.019	-0.030	0.020	0.014
男性的な	-0.107	0.033	0.011	0.144	-0.112	-0.065	-0.007	0.037	-0.047	-0.080
速い	-0.020	0.069	0.057	0.079	-0.063	0.067	-0.040	0.061	0.074	-0.012
死を知らせてほしい	0.023	0.013	0.033	-0.050	-0.026	-0.027	-0.038	0.027	0.067	0.061
終末期の患者の側にいたい	-0.156	0.002	0.099	0.070	0.180	0.010	0.093	-0.069	-0.013	0.035
死の苦しみには意味がない	0.063	0.081	0.045	0.138	-0.037	0.048	0.068	0.059	-0.095	-0.037
家族や親しい人の死の経験あり	-0.071	0.126	0.039	0.072	0.058	0.090	0.159	0.002	-0.009	0.007
死の看護をしたことがある	0.074	0.002	0.049	-0.028	0.106	0.023	0.060	0.110	0.108	-0.011
ベットの死の経験がある	0.015	0.032	0.002	0.013	0.017	0.013	0.034	0.046	-0.079	0.103
重い病気をした	0.072	-0.039	0.031	0.079	0.006	0.031	0.031	0.055	0.070	0.005
自分の死を恐怖した	0.106	0.080	0.036	0.125	0.026	0.081	0.047	0.013	0.008	0.082
透明	0.038	0.086	0.004	0.133	0.101	0.032	0.048	-0.029	0.032	-0.012

第8因子は、「何事も積極的なほうである」「感受性は豊かだ」など積極性、外向性に関する項目、自己肯定的な態度、活動的で前向きな態度を示す項目で負荷量が高かった。他に「死についてよく話題にする」という項目も関係していた。

第9因子は、「他人の苦しみがよくわかる」という共感性に関する項目、「人のために尽くすのが好き」など積極性に関する項目、および「緊張面」といった項目で負荷量が高かった。また、死に対する覚悟、安定した感情、軽躁気分を示す項目、すなわち死に対する「連続的な」「美しい」などのイメージを示す項目も若干の負荷をもっていた。

第10因子は、「死後の世界がある」など霊魂の不滅、アニミズム、神の存在を肯定する項目、他に「肌色」という死の色のイメージの項目で負荷量が高かった。

3. 対象の特性別因子得点の差

全項目から抽出された10因子の因子得点の平均値を、学年別、宗教の有無、母親の職業が看護婦か否かで各特性別の差を検討した。

1) 学年による差

上記の各要因について分散分析の結果、各因子得点の学年別平均値に有意差は認められなかった。表10は、因子得点平均値の学年差が比較的大きかった第5、第8、第10因子の各平均値を示したものである。なお、因子得点は、平均0、分散1に標準化されている。第5因子は、死とターミナルケアに対する高い関心、援助意志に関するものであるが、4年生の平均値が他の学年に比べ低いことがわかる。第8因子は、積極性、外向性、自己肯定、活動的態度に関するものであり、3年生が0.279と高く、4年生が-0.204と低い。2年生はやや低く、1年生は全平均値とほぼ等しい値を示している。第10因子は、死後の世界、アニミズム、神の存在の肯定に関するもので、2年生が他の学年に比し、特に低い値を示している。

2) 宗教の有無による差

宗教の有無により各因子得点の母平均値の差の検定結果を表11に示した。4つの因子で有意差が認められ、いずれも宗教をもつ学生の平均値が高かった。有意差が認められたものは、死に対する肯定的、良いイメージに関する第1因子、死とターミナルケアへの高い関心・援助意志に関する第5因子、積極性、外向性、自己肯定、活動的態度に関する第8因子、および死後の世界、アニミズム、神の存在の肯定に関する第10因子である。

3) 母親が看護婦であるか否かによる差

表12は、母親が看護婦であるか否かにより、各因子得

表10 学年別3因子得点の平均値

	1年	2年	3年	4年
第5因子	0.133	0.090	0.021	-0.217
第8因子	0.003	-0.079	0.279	-0.204
第10因子	0.147	-0.227	0.028	0.054

(学年差によるF検定で有意差はみられない)

表11 宗教の有無による因子得点の平均値の差の検定

因子	宗教		t値	p
	有(38)	無(176)		
第1因子	0.313	-0.068	-2.15	0.033
第2因子	0.084	-0.018	-0.57	0.569
第3因子	-0.122	0.026	0.83	0.409
第4因子	0.013	-0.003	-0.09	0.928
第5因子	0.353	-0.076	-3.00**	0.004
第6因子	-0.037	0.008	0.25	0.801
第7因子	0.239	-0.052	-1.63	0.104
第8因子	0.404	-0.087	-2.79	0.006
第9因子	0.256	-0.055	-1.75	0.081
第10因子	0.544	-0.117	-3.81	0.000

※ p < 0.05

※ 宗教 有 38人 無 176人

※※ 不等分散のためウェルチ(welch)の検定

表12 母親の職業が看護婦であるか否かによる因子得点の平均値の差の検定

因子	母親の職業		t値	p
	看護婦(36)	その他(177)		
第1因子	-0.144	0.019	0.90	0.370
第2因子	0.141	-0.045	1.03	0.303
第3因子	-0.236	0.054	1.59	0.113
第4因子	0.055	-0.008	0.29※	0.772
第5因子	-0.082	0.011	0.51	0.612
第6因子	0.013	-0.005	0.10	0.920
第7因子	0.053	-0.013	0.36	0.720
第8因子	0.159	-0.031	1.04	0.300
第9因子	-0.027	0.007	0.18	0.857
第10因子	0.019	-0.007	0.14	0.886

※ 不等分散のためウェルチ(welch)の検定

点の平均値を示したものである。有意差の認められた因子はなかったが、母親が看護婦である学生のほうに比較的低い値がみられたのは、死に対する暖かい色のイメージに関する第3因子であった。同様な傾向は死に対する肯定的なイメージを示す第1因子にもみられた。看護婦の母親をもつ学生で比較的高い平均値を示したのは、死に対するきらびやかな葬儀の色のイメージに関する第2因子、および積極性、外向性、自己肯定、活動的態度に関する第8因子においてであった。

V 考察

看護専門職をめざす看護学生にとって、死や終末期の患者に対する援助を学習することは必須とされるであろう。Quit¹¹⁾が指摘するように、看護学生が初期の学習過

程の中で受ける死や瀕死の患者の援助に関する指導が将来の看護活動に大きく影響するとすれば、それは、看護教育を行う側にとってもまた、重要な課題であると考えられる。

すでに、看護学生の援助認識や援助行動の質的変容過程を検討し、望ましい援助行動に影響する要因を明らかにしようとする研究が報告されている⁴⁾。

本研究は、看護学生が死や終末期にある患者を援助する際に示す様々な反応を、あらかじめ予測するための手がかりを得ようとしたものである。すなわち、看護学生の死に対するイメージを中心に情緒的意味内容を伴うとみられる¹²⁾死の色のイメージ、性格、死に対する態度（援助意志・関心）、個人的背景（学年、死に遭遇した経験、宗教、母親の職業が看護婦か否か）など、関連があると考えられる要因の関係性を抽出するために多変量解析の一手法である因子分析を用いて上記の各要因に関して相互関連の検討を試みたものである。

その結果、いくつかの知見が得られたが、そのうち因子分析による興味ある結果について考察し、次に各対象特性との関係について若干の検討を加えよう。

1) 死のイメージとして抽出された5つの因子の中に、良い、暖かい、肯定的なイメージ、美しいイメージに関する2つの因子がある。これは、一見、意外な結果であるように思われる。しかし、学生という若い年代では、終末期を迎えたときの実感が乏しく死を観念的に捉え、この結果はむしろ、学生の願望が表われたものとみることができよう。単純集計の結果のうち、「自分の死が予測される場合知らせてほしい」が81%、「自分の死を考えると心が乱れる」が22%であったことから上記のことは支持されるものと考えられる。

2) 死の色のイメージとしては、「黒」や「灰色」の負荷量の高い因子が1つあり、これは、暗い、強烈な、重々しいイメージに関する因子と考えられるが、他の3因子は、それぞれ何らかの意味で肯定的なイメージに関するものである。すでに述べた死のイメージと同様、学生の年代や過去経験の少ないことなどの反映によるものと思われる。

全項目の因子分析でも抽出されているが、きらびやかな荘重な葬儀を思わせるようなイメージに関する因子が抽出されたことは、きわめて興味深いといえる。このような色のイメージは、学生に特徴的であるというよりも、人が自らの最後の姿を荘厳で尊いものにしたいという無意識の願望を象徴するものとして普遍的なものと考えてよいだろう。なお、学生が死のイメージに合うとした色について、単純集計の結果から高率であったものは、上位から「白」「透明」「灰色」「黒」の順であ

り、「白」は81%、「黒」は57%であった。

3) 全項目をまとめた場合の因子分析の結果、死に対して肯定的なイメージをもつ学生は、死を柔かい「桃色」、また佐藤¹³⁾の指摘する色に象徴される意味内容の関連でみると、「慰安」や「平静」を象徴する「緑色」でイメージしており、さらに、人の死に直面した際の自己の安定した態度傾向、死およびターミナルケアへの高い関心、援助の意志を示している。一方、患者の死に直面して神経質で情緒不安定な性格をもつ学生は、死に対して否定的なイメージを抱き、不安定な態度をとりやすいことを示唆している。

この結果は、イメージの行動への反映、あるいは、Boulding¹⁴⁾がすでに指摘したように、行動のイメージへの依存を示すものと考えることができよう。また色彩によるイメージは、人がその死に対して抱くイメージと同様、自己の内面や行動と深くかかわっているものと考えられるだろう。さらに、死に対する否定的なイメージと情緒的不安定との関係は、死のイメージへの不安定な自己の投影によるものと考えられることから、これは、イメージへの自己の内面の反映を表わしているとみることができる。

以上のような関係のもとに、全項目の因子分析から抽出された因子を用いることで、学生の死や終末期の患者の援助に際して示す反応を予測することが、ただちにできるわけではないことに注意しよう。臨床実習でターミナルケアを体験している4年生、編入生以外は、あくまで学生が抱くイメージと学生が予測する態度および関連要因の関係を示しているだけであり、実際場面での反応を正しく表わしていると考えるべきではない。しかし、抽出された各因子の得点の大小により、学生の現時点での死のイメージやそれと関連の強い態度傾向などを知ることができること、さらに、学生がもつイメージと学生が示す現実場面での反応とを照合することができることなどから、より有効な実習、より効果的な看護教育への手がかりを得ることを可能にするものと考えられる。仮に、学生の死や終末期の患者に対するイメージと現実とにズレが大きければ、そのズレを埋める教育を重視しなければならないからである。このことはまた学生の年代で、苦痛、苦悩の極限状態にある患者に接し、援助するという看護教育の特殊性を考えても十分認識すべき点であると思われる。

今後、学生の援助態度、行動を予測するだけでなく、現実即したイメージ形成、および望ましい行動変容に影響する要因を明らかにしていくことが必要であろう。

また、すでに病棟でターミナルケアに携わっている看護婦の死に対するイメージ、およびそれに関連する要因

を調査し、学生と比較することにより、有意な示唆を得ることができるかもしれない。

4) 学年別による因子得点の平均値を検定したところ、有意差は認められなかったが、いくつかの注目すべき点が見出された。すなわち、死とターミナルケアへの関心、援助意志、積極的態度、死に対する肯定的イメージを示す因子において、実習経験のある4年生の平均値が特に低かったということである。この結果は、学生の瀕死の患者への一般的援助意志が、卒業時までに徐々に高くなっていくという村田、波多野の研究結果⁴⁾とは一致しない。しかし、本研究は、調査方法が横断的であること、質問紙作成上特に援助態度や個人的経験の項目が不十分であったことなどから、学年差に影響している要因、および他の研究との比較については、縦断的調査による結果を待つべきものと考えられる。ただ1つ加えておかなければならない点は、4年生が調査時の約1年前、クラスメートの突然死を経験しているということ、およびアンケート調査が卒論テーマの提出時期と重なったということである。特に前者は、きわめて大きな要因であると言わなければならないだろう。

なお、調査時点の各学年の死や終末期の患者に関する学習、実習経験に触れると、1、2年生は、1年次に死にゆく人を描いた小説を題材にしたグループ学習、3年生は、さらに2年次後期に、「近い将来死をまねがれ得ない患者の看護」の講義を受けており、4年生は、3年次後期に臨床実習を経験していた。

5) 宗教の有無における因子得点の平均値において、有意差の認められた因子のうち、平均値の差の最も大きかったものは、死後の世界、アニミズム、神の存在の肯定を示すものである。これは、神の存在、死後の世界など信仰そのものについての項目が含まれており当然の結果であると言えよう。死に対する肯定的、良いイメージに関する因子が宗教をもっている学生に有意に高かったことも、靈魂の不滅を信ずるなどの理由で同様に考えられよう。

しかし、積極性、外向性、自己肯定、活動的態度に関する因子、死とターミナルケアへの関心、援助意志に関する因子においても宗教をもっている学生の平均値が高いことが認められたことも注目すべき点であると考えられる。

6) 母親の職業が看護婦であるか否かによる各因子得点の平均値の差を検定したところ、有意差は認められなかった。しかし、母親が看護婦である学生は、そうでない学生に比べ、死に対する肯定的なイメージ、暖かい、身近なイメージに関する因子において因子得点が低く、一方、積極性、外向性、活動的態度に関する因子におい

て、わずかではあるが高い値を示している。このことから、看護婦の母親をもつ学生が、幼い頃から死に関する話題に触れる機会が他の学生より多く、そのためそれがある意味での外傷体験となっているのではないかと予測される。反面、母親をモデルとして専門職への高い動機づけがなされているとも考えられよう。

ここで、先に触れた質問紙の項目について再考すると、特に援助行動に関する項目の選定、および文章化が難しいといえる。本調査では、援助意志、関心などの態度に関する項目のみであり、また解釈上のあいまいさを避けられない項目があるなどいくつかの問題を残している。後者では、たとえば「人が目の前で死んでいってもあまり不安には感じないだろう」という項目がある。これに対してターミナルケアの実習経験のない1、2、3年生が予測的に答える場合とすでに実習経験のある4年生が実際の経験をふまえて答えるのとでは、区別されなければならないだろう。また、これを安定した態度ととるか、感受性の問題を含むものかの区別も不明確である。

今回の調査では、そのまま安定した態度傾向を示すものと考えたこととした。

上記の点から、今後質問項目についてもさらに検討を行い、よりよい質問紙を作成する必要があるものと考えられる。

VI 結 論

看護学生の死および終末期の患者に対する反応を予測するための可能な指標を得ることを目標とし、死のイメージとそれに関連する要因について、看護学生を対象に調査し、因子分析により以下の10因子を抽出し、それに考察を加えた。得られた10因子は、以下のように解釈された。すなわち、

- 1) 死に対する肯定的、良いイメージに関する因子
- 2) 死に対するきらびやかな、葬儀のような色のイメージに関する因子
- 3) 死に対する暖かい色、身近なイメージに関する因子
- 4) 死に対する澄んだ、清らかな色のイメージに関する因子
- 5) 死とターミナルケアへの関心、援助意志に関する因子
- 6) 死に対する衝撃的なイメージの因子
- 7) 情緒不安定、死に対する否定的イメージに関する因子
- 8) 積極性、外向性、自己肯定、活動的態度に関する

因子

9) 真剣さ、共感性、前向きな態度に関する因子

10) 靈魂の不滅、アニミズム、神の存在を肯定することに関する因子である。

上記の10因子を対象特性別に検討したところ、死のイメージ、死の色のイメージ、性格、援助意志・態度傾向には、相互に深い関係があることが示された。また、宗教（信仰）は援助意志・態度に対して望ましい影響を与える要因であることが示唆された。

この研究にあたり、元聖路加看護大学助教授伊藤幸子先生から貴重な御意見をいただきました。ここに深謝致します。また調査に御協力下さった学生の皆様に心から御礼申し上げます。

参考文献

1) 西村由紀子、他：看護学生の死に対する認識について、第14回日本看護学会＜看護教育＞集録、日本看護協会出版会、1983、p. 287～291。

2) 波多野梗子、村田恵子：看護学生の終末期患者への援助的認識と看護行動傾向の学年による差異、看護研究、14(1)：62～72、1981。

3) 波多野梗子、村田恵子：終末期患者に対する看護学生の援助認識・援助行動傾向への関連要因、看護研究、15(4)：56～62、1982。

4) 看護学生の死および瀕死の患者に対する態度と援助認識・行動傾向の発達的变化、看護教育、24(7)：410～417、1983。

5) 北村晴朗：心理学小辞典、協同出版、1978。

6) 依田新監修：教育心理学辞典、金子書房、1978。

7) 岩下豊彦：オズグットの意味論とSD法、川島書店、1979。

8) 柳井晴夫、他：多変量解析法、公衆衛生、47(11)：744～751、1983。

9) 高木廣文：ナースのための統計学、医学書院、1983。

10) Nie N. H., et al. : Statistical Package for the Social Sciences, McGraw Hill, 1975。

11) Quint J. C., 武山満智子訳：看護婦と患者の死、医学書院、1980。

12) 西川虎一：色彩心理学、造形社、1981。

13) 滝本孝雄、藤沢英昭：入門色彩心理学、大日本図書、1982。

14) K. E. ボウルディング、大川信明訳：ザ・イメージ、誠心書房、1984。

お知らせ

日本医療情報学会

——第1回「パソコン簡易言語研究会」開催のご案内——

◆日時：昭和61年6月21日(土) 14時～17時

◆会場：順天堂大学医学部新館6階 階段教室

東京都文京区本郷2-1-1 Tel. 03(813)3111

国電お茶の水駅および地下鉄丸の内線お茶の水駅徒歩3分 地下鉄千代田線新お茶の水駅徒歩5分

◆主催：パソコン簡易言語研究会

◆後援：メディカル・マイクロコンピュータ・クラブ

◆参加費：日本医療情報学会会員

1,000円

メディカル・マイクロコンピュータ・クラブ会員

1,000円

一般

2,000円

◆内容：①「簡易言語とは」山田恒夫（財団法人医療情報システム開発センター）

②「MS-DOSについて」神立 進（栃木県身体障害福祉医療センター）

③「リレーショナル・データベースの概念」辻 和男（東京慈恵会医科大学）

◆申込・お問合せ先：〒107 東京都港区赤坂2-3-4 ランディック赤坂ビル10階

(財)医療情報システム開発センター内 日本医療情報学会事務局